

第 1 4 1 回簿記検定試験
3 級 出題の意図

[第 1 問]

(出題の意図)

基本的な仕訳の能力を問う問題です。特に留意すべきところは次のとおりです。

2. 当座預金および小切手の出題は以前から何度も出題されていますが、今回は小切手帳の交付を受けた際の処理を出題しました。小切手および手形は、一定の料金を支払って取引銀行から交付を受けた専用の用紙の綴り（小切手帳、手形帳）を使用します。そこで、実務上は小切手や手形を使用した時だけでなく、交付を受けて料金を支払った際の処理の知識も必要となります。なお、本問では勘定科目一覧に含めていませんが、銀行に支払った料金については消耗品費（もしくは消耗品）勘定で処理することもあります。
4. 当店は自動車販売業であり、かつ販売目的で取得した自動車ですので、商品売買として処理する必要があります。

[第 2 問]

(出題の意図)

本問は、当座預金に関する勘定記入について、日々の勘定残高を把握したうえで、当座預金勘定と当座借越勘定を用いて適切に処理できるかを問う問題です。当座預金勘定の増減にあたり、当座預金出納帳の作成同様に残高を意識し、資金の状況に注意してもらうことを出題の意図としています。

本問の解法に関心を持つだけでなく、日々の残高の状況、借越限度額、仕入または売上代金の決済期日、借入れに対する返済など多くの事柄に注意しながら滞りなく経営活動ができるようにすることは、処理を行うこと以上に重要な内容です。実際の経営活動の中でも活かすことが出来るように学習を行うことが大切です。

[第 3 問]

(出題の意図)

本問は、期中に経過した取引高の状況を整理した残高試算表に当月の取引データを加味し、年間の取引高から生じた経営活動の概要を表す決算整理前の残高試算表を作成する問題です。取引データは、現金および当座預金の入出金に関する取引および商品売買に関する取引を中心としており、期中において繰り

返し行われる取引を確実に処理できるかを集計の主な論点としています。

試算表の構造としては、月初残高と月中取引を分離していますので、過去の取引の概要と当月取引高のそれぞれを把握することができ、月中取引の内容は各勘定における当月取引の転記面を表していることになります。結果として、期中経過高と当月の取引（損益を含む）の進捗状況が把握できるようになっています。試算表は、勘定への転記ミスの有無を確認する手段として作成するのみでなく、各勘定の状況を把握する、決算手続きの基礎資料としても利用できます。残高試算表であれば、当期の経営活動の概要をつかむことが可能です。このように、利用価値の高い情報の作成となりますので、試算表を単に取引の集計作業としてのみとらえるのではなく、どのような利用につながるかを考えてもらえるように出題しました。

【第4問】

（出題の意図）

基本的な簿記の知識を確認する問題です。選択肢を示さず、かつ漢字で答えるものとしましたが、ほぼ4級レベルの内容ですので完答が望めます。

【第5問】

（出題の意図）

本問は、個人商店の決算にかかる財務諸表の作成を行う問題で、決算に関する基本的な知識や処理能力があるかを問うものです。基本的な項目を中心に出したので、確実に処理できることが望めます。決算にあたっては、未処理の取引を整理したうえで、決算整理を行います。

主な注意点は次のとおりです。

①決算整理前勘定残高の推定を行います。

資本金勘定は、期中の変動額（追加元入れや引出し）を加味した残高となります。よって、資料に与えられた資本金勘定の貸借差額で求めます。

現金勘定の推定にあたっては、決算整理前の元帳勘定残高が残高試算表の数値を表していることを理解してください。残高試算表の借方合計と貸方合計は一致することから、貸方合計から借方合計（現金を除く）を差し引いて求めます。また、財務諸表に記載する現金は実際有高であることを考えれば、一旦、元帳に実際有高を当てはめてみて貸借が一致しなければ、差額（本問では雑損）が生じていることを確かめることができます。

②資料3の貸倒引当金の設定は、債権の修正後残高（資料2の取引を加味）に対して行います。

- ③資料 5 の減価償却は、減価償却そのものが何を行っているかを理解してもらうために出題しました。直接法記帳により、備品の勘定残高は過去の償却額を差し引いた金額になっています。残存価額はゼロであるため、当期以降の残存耐用年数（5 年）で備品の勘定残高を償却することになります。資料内には、取得原価は各自推定とありますが、帳簿勘定残高が取得原価となっていないことを表す注意として記載したもので、本来は不要なものです。
- ④資料 7 の保険料勘定にかかる当期未経過高は、貸借対照表に前払費用として表示します。
- ⑤資料 8 の支払利息勘定にかかる利息未払高は、貸借対照表に未払費用として表示します。

決算整理事項等の出題内容は、いつもとほぼ同様です。3 級の範囲に示された学習をきちんと行っていれば本問は問題なく解答できると思われます。過去問題の解き方や予想問題ばかりに関心を持ち、学習段階で必要な知識を身に付けていない方も近年見受けられます。処理を機械的に覚える学習のみではなく、簿記の構造や決算整理の意味を正しく理解する学習を心掛けてください。上級に進んだときにも必要となりますので、対応能力の伴う簿記の知識を身に付けておくことが望まれます。